

教育方法の理論と実践 特別版

メールは送らなくてよいと言ったのですが、「どうしても言いたい」、「みんなにこの場を借りて感謝しておきたい」、「感想集の最後を着地させておきたい」という学生など、21人（約3分の1）もの学生たちからメールが届いたことにびっくりしました。「しなくてよい」と言われても、自分で決心し、プラスのアクションが起こせる学生たちが育ったことを心から嬉しく思います。

（一部を紹介しておきます）

○ 本日で中嶋先生の授業は終了となり、達成感がある反面、少し空虚感を感じてしまうというのが正直な気持ちです。この一学期間私は、教職課程の授業の中で一番力を注いだ教科であると思います。課題も多く、日本の大学システムではまれに見る授業なのではないかと思えます。しかし、それでも最後までやり切れたのは、中嶋先生の真の優しさがあつたからではないかと思えます。

何も指導、指摘のない人は優しく見えるだけでそうではない。厳しいことをきちんと指摘できる人こそが本当の意味で優しい人であると気づかせてくださったのが中嶋先生です。常に、確固たる地位と、不屈の精神のオーラをまとった先生が前にいてくださることで先生のようにになりたい、またいずれは先生を超えるような人間になりたいと感じる毎日でした。クラス一体となって協働学習ができたクラスは人生で初めてです。中嶋先生はもちろんのことですが、3回生、4回生の皆さん本当にありがとうございました。同じ教職履修者として、これからも向上心を忘れずに取り組んでいきましょう。

○ 4回生の方の落語を聞いて、差を感じました。伝わり方が全然違いました。覚えることは、あたりまえ。さらにどう面白くするかを工夫してらして、驚きました。あれが、教師が生徒に見せるべきモデルだと思えました。また、最後のムービーを見て、日本人であることをとても誇りに感じました。また、人を育てることの感動を見せてもらい、純粋に「いいなあ」と感じました。

今日、私は、先生の授業を受けて、人としてどうありたいかということのを改めて考えました。教師になる、ならない以前に、自分の言動や行動は人を幸せにできるものにしたいたいと思えました。きっと、今日のアルバイトから、私の接客は少し変わってくるはずですが、ちょっとした気遣いができる、相手を思いやれる人になります。半年間、先生の授業で学んだことはたくさんあります。一つ一つを自分の力に変えて頑張ります。本当にありがとうございました。

○ 本日は、火曜日の最後の授業に参加させていただき、ありがとうございました。今日の授業を受けることができ、本当によかったと思えました。こんな素晴らしい授業を、土曜2限のときにも用意していただいていたにも関わらず、あのような態度で授業を受けてしまい、申し訳ありませんでした。

<以下全授業を通しての感想です>

私は、最初この授業を取り消そうと考えていました。中嶋先生はとても厳しいと聞いていたからです。しかし、この授業を取り消せば、教職を取り消さなければならないので最初はいいやや授業を受けていました。しかし、日を増すごとに中嶋先生の虜になっている自分がいました。最終的には、中嶋先生のような教師を目指していました。正直自分がここまで変わってしまったことに、とても驚いています。

そして、本日の講義を受けて、私は一つ決心したことがあります。それは、必ず教師になるということです。本日、中嶋先生に見せていただいたムービーを見たとき、こんな子供たちを育てたい

と思いましたが。しかし、今のままでは教師になったところで、中嶋先生のような授業はできないのは当然です。今日で中嶋先生の授業は終わってしまいましたが、これからもいい教師になるために努力していく所存です。教科書の音読や、英語力（文法）などの向上をしていきます。そしていつかは、中嶋先生を超えていけるような教師を目指したいと思います。

今まで、ありがとうございました。そして必ず、教育実習を成功させます。また、研究室のほうにもお伺いさせていただくことがあると思いますが、その時はよろしく願いいたします。

○ 紙の裏に感想書きましたが、メール送らせてもらいます。中嶋先生から、たくさんのこと学ばせていただきました。”人間力”というものが一体どういうものなのか？実際に中嶋先生の授業を受けてわかった気がします。私は、見通しを立てて計画することはあまりしなかったのですが、（親にも言われていました）しかし、見通しを立てることによって行動ができるということを全身で感じ取ることができました。英語を学ぶだけでなく、道徳としてでも養えるという授業は本当に素晴らしいと思いました。中嶋先生は教師だけでなく、人としても魅力があり、誰もがついていきたいと思うはずです。私もそういう魅力のある人になりたいです。中嶋先生の授業から学んだことをまずは、一人の人間として成長していきたいと強く思います。忙しい中、本当に成長できる授業をありがとうございました。

○ これが最後の振り返りメールとなります。前の授業ではもやもやしたままで終わってしまいましたが、今日の授業に参加させていただくことが出来、本当によかったと思いました。落語をしましたが、色々な人の発表を見ることで、声の大きさ、トーンなどの違いに気づき、こうした方がいいんだと学ぶことが出来ました。先生が仰っていたように、他人も自分も「鏡」なんだということをも身を以て実感しました。最後の映像では、涙を堪えるのに必死でした。あの映像を生徒に見せれば殆どの生徒が泣くと思います。英語を通じて言語だけではなく、文化や世界のこと、日本人として誇りに思うこと、考えなければならないこと、など様々なことを学ぶことが出来るため、英語は只の言語だけではないな、と思いました。中学生の歌や卒業式の映像は教師の集大成だと感じました。全ての生徒があんな風になってくれるのは、先生の指導だけではなく、一人の教師、人間としての中嶋先生を好きだったからだと思います。生徒に、そんな風に思ってもらえるまでには辛いこともたくさんあると思いますが、その分喜びはとても大きいものだと思います。そのようなことを経験できる教師という仕事は、本当に素晴らしい職業だと思います。

○ 本日で最後の授業でした。半年間ありがとうございました。今日の授業で最後の卒業式の動画を見て、とても心にくるものがありました。卒業式の場面を見ると、自分の中学校の時を思い出しました。私が教職をとろうとおもったきっかけが、中学校の時の英語の先生と出会ったことなのですが、映像を見たことで、その頃を思い出し、また、その先生のようにになりたい、という気持ちがまた一層強くなりました。中嶋先生の授業は、他の先生の授業と違って、自分の人生をよりよくするためのことをしっかりと教えてくれているような気がします。中嶋先生の授業は、一回生の頃にとっついて、その頃から圧倒されていましたが、教職の教科でもう一度履修したことによって、さらに中嶋先生はすごい人だ！と実感しました。教育実習に行くまでに期間がありますが、先生に授業で教えて頂いたことを忘れず、毎日頑張っていきたいとおもいます。人生のものの見方を変えるような、そんなすごい授業を毎回していただき、ありがとうございました。

○ 本日のビデオに出ていたメッセージのように、私も正直取り消そうか悩んだ時期がありました。ジグソー学習の時も、先輩や他の子と自分を比べてショックや劣等感を抱いていました。しかし、出来るようになったことを実感できた時もあり、自分が成長できているようでとても楽しくなりま

した。初めは失礼ですが、授業が憂鬱でした。でも今は振り返っているだけで涙が出そうで、終わってしまって残念です。先生の授業では自分が学んだり、成長できていることを実感できたりしました。それは、そうなる様に先生が授業を構成してくださっていたからだと思います。しかし、私は中嶋先生の授業以外でそんな先生や授業に巡り合えていないので、これからが少し不安です。物足りなさを感じる様な気がします。

2年生の時、教育実習に行くのが嫌だなと思うことが何回もありました。何をどんな風にするのか、何もわからず不安しかなかったからです。しかし、あれだけ教育実習の時にすることを徹底的にさせていただいたので今はあまり不安は感じていません。何年生に行けて、どんな単元が出来るのか少し楽しみでもあります。私が受けて来た教師中心の授業ではなく、生徒一人ひとりがイキイキとできる授業を目指そうと思います。

文章をまとめる力がなく、長々と書いてしまい、すみません。何と書いていいのかわからないのですが、先生には感謝の気持ちでいっぱいです。4ヶ月という短い期間ではありましたが、とても印象に残る有意義な時間を過ごせました。本当にありがとうございました。

○ 春学期の中嶋先生の授業が終了しました。評価シートの裏に感想を書きながら、この春学期の思い出が走馬灯のように駆け巡りました。模擬授業の前日に中嶋先生から届いたメールを読んで吐いたこともありました。模擬授業の練習をするから新田辺まで来てくれと、夜中に呼び起されたこともありました。この様に、仲間と深く関わってきた授業が終わってしまうことを残念に思います。私たちは中嶋先生の授業を通して多くのことを学びました。私は、先ほども研究室で述べたように、生徒たちを自然に関わらせ、友達を増やしていく、相手を大切に想えるクラスを目指していきます。

生徒に関わらせるためにはA=MVPであったり、授業中での確認であったり、本日の落語のような発表会もあります。生徒がのびのびと活動するためには、教師が恥ずかしがらず教壇にたつこと、あげればきりがありません。

中嶋先生の授業では知らない間にそのような雰囲気が出来上がり、それができるのも中嶋先生の本気の姿勢が私たちに伝わっていたからです。

この春学期、辛いことのほうが多かったような気がします。それでも今日、授業の終わりを迎え、不透明だったものがクリアに見ることができた気がします。中学生の皆さんが歌っていた音楽を思い出だけで、今でも鳥肌が立ちます。私も教員になり、教師になって中嶋先生や、今まで私を育ててくれた先生方に恩返しができればと思います。

春学期の30回の授業を本当にありがとうございました。もし中嶋先生に少しでもお時間がありましたら、本日の感謝メールや決意メールも感想集のような形で送っていただけませんか。仲間たちがどのような気持ちで終わりを迎えたのか読んでみたいと思っております。最後までご迷惑をおかけいたしますが、どうぞよろしく願いいたします。

○ 授業評価シートでもコメントを書かせてもらいましたが、メールでもコメントを送らせていただきます。多少お見苦しいところもあるかもしれませんが、拝見いただければと思います。

少し個人的なことから述べます。自分が教師を目指そうと決心した時は高校三年の時です。もともと小学校の卒業文集に自分の夢を教師と書くぐらい人に何かを教えることが好きでした。そしてその行動が自分の招来と結びついたのが高校の時でした。そこからこの関西外大で英語を学び、教職課程で教師としてのノウハウを学び、塾講師として様々な子どもたちとの関わり方を学んできました。そして迎えたこの三年生の春学期、この授業を履修する時が来ました。この授業を履修する前より、先輩たちから「中嶋先生の授業は厳しい」などと耳にしていました。そして最初の授業

が始まりました。先生の授業は自他ともに認める厳しい授業です。しかし、正直な感想として自分にはあまりそのような感覚はありませんでした。授業を受けるたびに何か新しいことを学ばせてもらい、そのスキルを身につけるための課題。正直課題や模擬授業の準備に追われる日々もありました。しかし、その中で何か今までの教職の授業とは違う感覚がありました。自分で、またはグループで考えるたびに自分が一つずつ成長している感覚がありました。

これは何も抽象的な話ではなく、自分の中ではレポートが自分の成長を一番実感できる資料です。最初のレポートは B、そこから校正を重ねた二回目のレポートは A、そしてさらに校正を重ねたレポートは A+ の評価をもらいました。最初は英文を読めるだけだった自分が、感情をこめて読むこと、抑揚や表情やジェスチャーをつけながら音読することへと自分を高めることができました。怪談の音読の授業で自分が音読し終わった後に、名前を言って「感情をこめて読んでいるね。」とクラスの前で言ってもらった時、あの瞬間に自分の中で音読に対する達成感がありました。しかもそれだけではなく、四回の方の音読を聞いて、さらに自分が工夫するべきことを考えられるようになりました。

さて、ここまでずいぶん長く個人的なことを述べさせてもらいましたが、自分の中で少し考えたことがあります。それは「育てる」とはどういうことなのかということです。

抽象的な話かもしれませんが、教師の役割、そして責任が未来の子どもたちを育てることであればこれはずっと捉えておくべき問題です。そして自分の意見を正直に言わせてもらおうとまだ模索中の状態です。辞書に載っている「育てる」という言葉の定義は「能力などが伸びるように教え導く。教え鍛えたりして、一人前として通用するまでにする。」とあります。この定義からすると、自分はまだ人を育てた経験はありません。一応塾講師として卒業生も送り出してはいますが、それが実際に育てるといふことなのかという疑問が残ります。

しかし、この段階で終わるつもりはありません。もっと自分自身も成長していきたいと感じます。これは、言葉はシンプルですが教師をする上での一つの良いことではないかと思います。また個人的な話になるのですが、自分が塾講師を始めて一年目の時、あまりの大変さに一年目でやめようと思ったことがあります。そのモチベーションでずっと続けていたのですが、あるとき自分の三つ上の先輩が、大勢の先生たちの前で夏季講習努力賞というものをもらっていました。その姿を見て、自分は単純に「かっいいいなー、自分もあんな風で大勢の前であんな賞をもらいたいなー」という漠然とした思いを抱きました。そこから現在までその先輩の姿を追い続け、去年にはその賞を頂くことができました。これは自分でも認める成長の証です。この成長というのは教師にしか、また人に何かを教える立場ではないと経験できないのではないかと思います。

自分はまだまだ教師としてスタートラインに立っている段階です。そこからのスタートダッシュは教員採用試験に合格することであったり、担任を持つことなどがあるのだと思います。そして、そこからのコースの走り方のようなものをこの授業で学びました。この経験は自分が教師をするにしろ、自分がこれから成長するにしろ必要不可欠な要素です。この経験をこれから生かしていきます。半年間ありがとうございました。

○ メールを送る必要はないのかもしれませんが、感じたことをいつでも確認できるように記録として残しておこうと思います。人に伝えることは責任を伴いますから。

教師は一つの職業です。給料をもらって生徒に科目を指導する。しかし、教師がその科目をただ生徒が内容を覚えることができるように指導するという枠だけに留めることは生徒の心が成長する機会を奪うことになるでしょう。いかにその科目を通して、生徒にとって貴重な 3 年間の内に、

生徒の心を育てるために指導できるかを教師は常に頭に置いておかなければなりません。生徒が自身を見つめ、理解し、仲間とともに学習できる環境を教師が作る。それには日々の授業で、教師がどのような活動を生徒に提供できるかにかかっています。今日の卒業式のビデオを見て改めて、ゴールを設定して、それに向けて準備をして、実践することの大切さを確認しました。

さて、今から実習に向けて準備をしなければいけません。英語の専門性（発音・イントネーション・語彙・文法への理解・言語の知識）は最低限必要なことだということをこの授業を通して、痛感しました。秋学期は教育法の授業がない（今学期で単位を落としていなければ）ので、自身の手で目標とその手順を設定して実行しなければいけません。より正確な発音を目指すために日々の発音記号の確認、ネイティブに近い音読ができるようになるためのシャドーイング、各文法事項の説明のための文法理解などを目標に一步でも上のレベルのモデルを示すことができるよう日々努力していきます。時には、スクールボランティアにも取り組み、今の生徒のことを少しでも知っておこうと思います。

○ 中嶋先生、これまで半年間素晴らしい授業をしていただき、ありがとうございました。半期という短い期間で、毎週工夫の凝らせた授業をする多忙さは並ではなかったと思います。このことには、クラスの仲間のつぶやきなどを聞いて気づきました。

授業を一通り終えて、想いはたくさんあります。その中から、自分が半年間で学んだことや力のついたことを並べて中嶋先生への感謝とし、これからの意気込みをお伝えしたいと思います。個人的な内容となってしまいますが、一読下さればと思います。

この半年で学んだこと。はじめに浮かぶのは本を読み、レポートを書くテクニックです。私もかつてはレポートが大の苦手で、文字数が極端に短くなっていました。しかし、今では克服できたと感じています。中嶋先生には、本を読む段階から工夫できることを教えて頂きました。レポートを書き始める前にマッピングをすること、出来上がってから他の人と見比べてみることも、すべて自分のプラスとなりました。3回のレポートは、どれも楽にはできませんでした。それでも毎回違う工夫を試すことで、最後には自分でも満足できるものが完成しました。そこで3回目の構成をして、指定文字数を「超えて」しまうほど内容の詰まったレポートができました。

もう一つは、英語の音読です。私はもともと英語の音読が「何となく」好きでした。他の人へのより適切な音読指導を学び、今では「自信を持って」好きだ、得意だと言えるようになりました。これまで、音読はがむしゃらに感情を込めれば良いものだと思っていました。表情豊かに、大きな声で読む。ですが、ここに来て音読は間を置くことや声の大小を利用しながら、聞き手の頭にイメージが浮かぶようにするものである、と気づきました。これを痛感したのが、教科書の音読練習で、3回生にコツを教えていた時です。「こんな風に読むと良い」「ここはこう発音する」など漠然としたアドバイスしかできませんでした。結局は”Repeat after me”の無味乾燥した指導になっていました。次から生徒に教えるときは相手のことを考えて、声の大小や間など、誰にでも通じる一般的なコツから段階的に教えていこうと思います。

そして3つめには、やはり協働学習の大切さです。仲間を見つめ、仲間から学ぶことで、より自分を高めることができました。ジグソー学習から教科書音読、レポート作成、模擬授業、英語落語まで、中嶋先生の授業には協働学習が張り巡らされていました。世界を自分中心に考え、自分に固執していても絶対に伸びません。既に挙げたレポートや教科書音読だけでなく、模擬授業や英語落語でも、自分の欠点を発見できました。それらに関しては、これが出発点になりました。お互いから学ぶこと。これを私のモットーの一つとし、仲間や生徒に広げていこうと思います。

以上の3点が、強く印象に残ったものです。自分が乗り越えるべき壁を前にして、胸が張り裂ける思いになることもありました。ここで学んだことはこれからの人生でさらに役立つと信じています。

中嶋先生は、授業の中で「私の授業を実習直前に受けられなくて残念だ」とおっしゃいました。授業で学んだことがすぐに使える、という観点からは本当にそうだ、と思います。ですが、私は実習の前の年に受講させて頂いて嬉しく感じています。なぜなら、実習まである時間を使い、自分をさらに高めることができるからです。私は明日、教育実習の依頼として母校へ向かいます。これから本番まで時間と環境がたくさんあります。生徒への想い、自分の軸を意識しつつも、相手から学ぶ謙虚な姿勢を大事にしていきます。

中嶋先生の教育方法の理論と実践。これは今までで一番刺激のある授業でした。

○ 「最後の3コマの授業から考える」という先生のことばが頭から離れません。こんなに壮大な授業を受けたのははじめてです。中嶋先生の授業で学ばせていただいたことは数えきれないほどあります。すべては自分一人ではできませんでした。模擬授業のメンバー、火曜1限のクラスメイト、水曜4限の人たち、そして中嶋先生がいたからこそ得ることができたものです。今回は授業を終えてみて、1つどうしても書きたいことがあるので、書かせていただきます。読んでいただければ、嬉しいです。

私はなかなか克服できない欠点があります。それは、「人に頼ることが苦手で、自分一人で進めてしまう事」です。自分だけで進めることで、簡単に進めることができ、自分の思い通りに出来るから楽だと思い込んでいました。しかし、道場に入って、自分一人よりも、みんなと協力することで、新たな発見があり、より高めることができるという事に気づくことができました。そして迎えた、春学期の中嶋先生の授業。頭の中ではわかっているにもかかわらず、まだまだ自分で進めてしまいがちな私でした。しかし、模擬授業で大きく私の行動は変わりました。人に頼ること、そして頼られることを心地よく感じるできるようになりました。模擬授業という私には少し大きすぎる壁を一つ乗り越え、やっと少し成長できた気がします。

このような機会を下さった中嶋先生には感謝しております本当にありがとうございました。最後になりましたが、秋学期も、4回生になっても、そして教師になっても、中嶋先生がつけて下さった、「教師になりたい」という情熱は決して忘れません。

○ 本日は中嶋先生の最後の授業でした。達成感はありましたが、少し寂しい気持ちもあります。本日の授業も本当にためになる授業でした。今までの授業を振り返りました。考えてみれば、中嶋先生の授業を受けることによって私の気持ちは少し変わりつつあります。なぜなら、この春学期が始まるまでは、教師になりたいと思う気持ちが薄かったです。しかし、中嶋先生の授業を受けることによって実際に模擬授業をする機会があり、自分の欠如さに悔しかったり、みんなが褒めてくれる場面だったり様々な気持ちを感じました。

この春に、教育実習に行く前の挨拶として高校に行きました。その際に、一人の生徒に「先生！～先生どこにいますか？」と声をかけられました。私はその時、何も分からなかったので分からないと答えたのですが、声をかけてくれるだけでこんなにも嬉しいものだと感じました。教育実習に行った時も、このように生徒が気軽に声をかけてきてくれるような教師になりたいです。たくさん生徒とコミュニケーションをとりたいです。このようにこの春学期で私の中での変化が自分で感じられます。実習に行くのは来年なので、秋学期自分なりに努力していこうと思っています。今の気持ちを忘れずに、継続していこうと思っています。中嶋先生、ありがとうございました。もしま

た何かにつまずいたときは、研究室にお伺いしてもよろしいでしょうか。

○ 振り返りメールはいらなとおっしゃっていましたが最後の授業を受けていてもたってもいられずメールさせていただきました。今まで先生の授業を受けてきて、そして最後に今日の授業を受けました。今日の授業中に4月ごろに受けた授業内容を思い出しこの半学期の先生の授業本当に早かったなあと感じました。初めのころの授業と今日の授業が本当につながりがあり、先生が最後の授業から計画を練ってきたとっておられたことを実感しました。この授業は、自分が今までに受けたこともないような衝撃の連続で、自分が将来何をすべきなのかを明確にしてくれた授業です。先生からのメッセージすべてが今後の教職人生で自分のためになりそうです。英語は生き物、言葉を通して道徳教育をという言葉がとても印象に残っています。自分が教師になった際英語を通して人間力を育てる、そんな授業をしたいです。そのモデルとなったのは中嶋先生でした。自分が中嶋先生のようになれるかはわかりませんが近づくことはできます。中嶋先生から教わったことを無駄にせずアレンジを加え自分なりに生徒の気持ちを引ける授業展開をします。

○ 評価シートの裏にも感想を書かせていただいたのですが、そこでは全てを書ききれなかったのので、今メールを送らせていただいています。

まず、最初にこれだけは言わせてください。中嶋先生の授業を履修出来て本当に良かったです。本当にありがとうございました。先生の授業は本当に課題も多くて、スピーチと音読のテストがある日がかぶったり、模擬授業をする日とレポートを提出する日がかぶったりと、この大学に来ていちばん大変な授業でした。しかし、それと同時に一番ためになる授業でもありました。

今、思い返せば、この授業をもし受けないまま実習に行っていたと考えると本当に恐怖でしかありません。それぐらいこの授業では、たくさん学ばせて頂きました。

私は全ての活動を通して、まず自分の英語力（特に発音）が乏しいと気がきました。音読テストがあり、一回目に落ちた時、私は一日30分欠かさず音読練習をしていました。しかし、再テストに合格してからはというものの、もの見事に練習をさぼってしまいました。それがあだとなり、模擬授業では、先輩からコメントを頂いた時、まず第一に指摘されたのは発音でした。だから、私は模擬授業の後から、家で必ず音読練習をするようにしています。1月に音読をする機会があるということなので、私はその時まで音読練習を欠かさずにし、先生の授業から学ばせて頂いたことを無駄にしないように、頑張りたいと思います。私は現在、毎日小学校や中学校でボランティアさせていただいているのですが、秋学期も継続して活動を続けていこうと思います。

あと、これは私の勝手なお願いなのですが、秋学期の学生の授業の振り返りメールを私にも送って頂くことは可能でしょうか。私は感想集から学ばせて頂くことも多々ありました。継続して朱書きを続けていくためにも、検討していただくと光栄です。最後になりましたが、最近先生の体調があまり良くないと聞きました。まだまだ暑い日も続きますが、お体を大事になさってください。また、研究室に御邪魔することもあると思いますが、その時はよろしくお願いします。

○ 本日、振り返りメールは要らないですと言われましたが、最後に無事今日を迎えられた事と、先生への大きな感謝、それからこれから繋げられるようメールを送らせて頂きたいと思います。本日は、土曜日2限の方も沢山授業に参加されていて、席が殆ど埋まっているという状態の中授業が始まりました。落語や今までの振り返り、感想集チェック等、また土曜日になれば授業が続いていくかのような錯覚を覚えました。

「あ…最後なんだ」と実感したのは、中嶋先生が見せてくださった中学の卒業式の映像が映し出された時でした。中嶋先生、生徒さん方、他の先生方、皆さん凄く素敵な笑顔で居るのを見ながら、

教師はこの日の為に在るものなんだと実感しました。

だからこそ、最後の中嶋先生からのメッセージを見たとき、テストはまだ残っていますが、私たちも今日で教育方法の理論と実践から卒業ってことなんだと少し不思議な気持ちになりました。4月から週2回、中抜けもありましたが、何もない日は無いんじゃないかというくらい日々課題に追われていたように思います。ですが、課題をクリアする事に増えていく仲間や、出来たという達成感、次はこうしたいという反省や、出来上がっていくクラスの雰囲気。これらに恵まれたことでこうして今、30回分の授業を鮮明に映像として頭に残すことが出来ているのだと思います。

去年は、やり切った、頑張った、そう思いながら達成感の中で最終日を迎えました。今年は、濃かったな、本当に30回も有ったんだろうか、寂しいな、でもここまで来れたんだという不思議な、何とも言い表せない気持ちの中最終日を迎えました。きっとこれは、過ごす時間も共に過ごす仲間も、去年の倍になった分密度の濃い日々を過ごせたからだだと思います。また、引っ張る側と引っ張られる側どちらの立場にも立つ機会があったり、課題と向き合う中壁とぶち当たったり、でもそこから次に繋げようと必死になったり、結果に涙を流したり、お腹の底から笑ったり、本当に多くの経験をさせてくれたからです。

30回で人はこんなにも変わり、学ぶことが出来るんだと先生には背中で教えて頂きました。教師は、やはり魅力的で素晴らしい職業だと思います。最後にクラス全員で顔を合わせるの、テストの日になります。学期としては最後のゴールです。ですが、このテストをも次に繋げていけるよう自律的学習者で有り続けたいと思います。30回を通して、心からの喜怒哀楽を共に出来る仲間と出逢わせて頂いたこと。毎日毎日、きっと私たちが見えない所で凄く大変な準備をして下さっていたこと。ダメなことはダメ、良いことは良いと言う裏で常に私たち一人一人を見てくれていたこと。何より、学ぶ姿勢を見せる子にはどんどん学ぶことの出来る環境や、学びを与えて頂いたこと。本当に書ききれない程、お世話になりました。中嶋先生、半年間本当に、本当にありがとうございました。

○ お忙しいかとは思いますが、メールを送らせていただきます。本日は、違うクラスにも関わらず、授業を受けさせていただきありがとうございます。大人数になってしまい、火曜日の方々に迷惑をかけてしまったと思います。しかし、火曜1限の授業の雰囲気も感じる事が出来てとても刺激になりました。

音読のリベンジですが、自信を持って発表することが出来ました。しかし、先輩のあの音読を最初に見たことで、やはり自分はまだまだだと感じました。今日初めてあの有名な島田さんをきちんと認識することが出来たのですが、文法だけでなく音読も完璧な方でとても驚きました。感情の入れ方は先輩方の中でも特にずば抜けていらっしやうと思いました。今まで教科書の行間を読むことをやってきましたが、島田さんの音読を見てこういうことなのかと理解することが出来ました。これから秋学期までに忘れないように、レベルアップ出来るように継続して練習していきたいです。

最後の最後にあのような形になってしまいましたが、今日授業に出られて本当に良かったです。チャンスを下さってありがとうございました。自ら考えて行動出来るようになります。ありがとうございました。

○ 最後のパワーポイントを見ながら30回の授業を思い出しました。はじめはグループの前で話すことも全くできませんでした。時間内にまとまらず、堂々と話せず、このままではだめだと思いました。先生や先輩アドバイスを受け、仲間と刺激しあいました。このような授業は初めてでした。

充実していて使命感も緊張感もあります。毎回の授業が楽しみでした。また、仲間とのつながりには本当にびっくりしています。このクラスには話したことのない人がたくさんいました。そのため不安もあったのですが、いまでは本当に仲良くなりました。本気で指摘しあえる仲間に出会えて本当に感謝しています。

4月と比べると成長できた部分がたくさんあると思います。しかし、まだまだな部分もたくさんあります。中嶋先生の授業は終わってしまいましたが、学んだことを無駄にしないためにも音読やリスニングを継続していきます。継続は力なりです。授業で続けると力になると実感しました。先生の授業を受けられたことはこの大学に来た一番の意味になると感じます。私の意識を高めてくださり、ありがとうございました。

○ 今日で遂に中嶋先生の授業が終わってしまいました。中嶋先生の授業は今まで授業を受けた中で1番内容が濃く、本気になった授業でした。初めは本当についていけるのかな、もう履修取り消ししようかと思うほどつらく、逃げ出したくなるのが何度かありました。しかし、今振り返ってみても、たった4か月なのにとっても濃い春学期だったと思います。授業以外でも模擬授業のグループで集まったり、レポートに時間をかけたり、課題をしたりと、全力を尽くしました。課題に関しても「先生課題出しすぎや」と思うこともありました。模擬授業ではうまくいかず、先生に研究室で喝を入れていただきました。そのつらかった経験もすべてが今に、今後につながっていることを身を持って感じています。そのような記憶がこのメールを書いている今も、よみがえってきます。それだけ、本気で取り組み、必死になっていたのだと思います。先生の授業では、教師になった時に用いることのできるアイデアはもちろん、人間として必要なことも教えていただきました。先生は説得力があり、私も納得しながら授業を受けることが出来ました。自分が納得しながら受講したのではっきり覚えています。私が今、このように明るく振り返れるのは先生はもちろん、同じ授業をとっている仲間がいたからだだと思います。感謝したいです。秋学期も、努力を続けます。困ったこと、悩んでいることがあれば、研究室に伺いたいと思います。その際には、話を聞いていただけたら幸いです。春学期間、本当にありがとうございました。

○ 改めて30回全部終わったんだという実感がわきました。1学期から3学期までのストーリーの集大成として、最後にこんな卒業式が待っているんだと思うとうるっとしました。以前も一回見ましたが、最後にもう一度大学生の評価を見て、ああ私も同じこと思ったというところがたくさんあり、この4か月長かったようで早かったなあと思いながら見ていました。

この中嶋先生の授業ではやっぱり一番人間性を鍛えられました。発音、音読、レポート、模擬授業、振り返りなど一つが終わればまた山のように、自分が今までなるべく避けていた、発表するという試練がたくさん振ってきた4か月でした。しかしおかげで、成長できました。

今まで持ってなかったような考えが生まれました。新しい仲間ができました。まだまだあります。なにより、もう一度、英語がやっぱり大好きだということに気付きました。英語に対する情熱が薄れかけていて、もう英語嫌だと思っていた感情を、追い払って価値のある授業をしてくれた中嶋先生には本当に感謝しています。発音が上手くなることでこんなに英語のモチベーションが変わるのか、そんな些細なことをたくさん、教えてくれました。秋学期、教職の授業は1つしかないの、英語力を伸ばします。実習では、生徒が力がつく授業・わくわくする授業は絶対に意識して、かつこの授業で失敗したことはしないように、自信をもって挑みたいです。

○ 今日の感謝の気持ちを伝えたくてメールをしました。読んでもらえたら幸いです。まずは今日の火曜日の授業に参加させていただき本当にありがとうございました。火曜1限の方々にも本当に

感謝しています。水曜4限の雰囲気とはまた一味も二味も違い、それを体験できたのもすごくよかったです。また、中嶋先生から頂いた言葉ひとつひとつが心に響きました。「本当に良い英語教師とは」この問いに春学期の最初の頃は答えられませんでした。しかし、全授業が終わり、中嶋先生からたくさん学び、今この問いを聞かれたらきちんと答えられる自信があります。今日の授業に参加できて本当によかったです。また研究室にも行かせてください。もっともっと中嶋先生の言葉、アドバイス、教えがほしいです。本当にありがとうございました。

メールを送ってなくても、みなさんの気持ちは届いています。テストを頑張って単位をしっかりとってくれることを期待しています。